

教区修道女連盟顧問司祭の小隈憲士神父(ザビエル教会主任)が6月2日に開催された教区修道女連盟の研修会で講話した「赦すこと」の2回目。

4 「赦すこと」が難しい時には、どうしても忍耐強く待ちながら誠実に対話する必要があります。赦しには時間がかかります。赦しには体験的に知っています。そして、私たちがとつて大きなチャレンジは次のような時です。

例えば、愛する大切な人が不条理に殺された時、その深い悲しみの中で、愛する大切な人を殺害したその相手も神の似姿に創られた存在なのだ、と認められるか否かです。これは大きな信仰の試練です。一つの例をご紹介します。

2015年11月13日、フランスでバタクランという劇場が武装した数人のテロリストに襲撃され、約130人の観客が射殺されるといふ大きな事件がありました。確かにテロは狂信と不寛容が存在する限り根絶することは難しいでしょう。

フランスでのこのテロリストの襲撃で、最愛の妻を殺されて、幼い子供と2人だけ残された若いフランス人のジャーナリストがいました。彼はテロリストに宛てて手記「ぼくは君たちを憎まないことにした」を書いていきます。ご存知の方もいらっしゃるでしょう。少しだけ引用します。

「きみたちは私の怒りを買うことはないだろう。金曜日の夜、きみたちは2人といない人の命を奪った。私の命の恋人であり、私の息子の母である人の命を。しかし、きみたちは私の怒りを買うことはないだろう。

う。きみたちがだれなのかは私には知らないし、知りたくもないが、きみたちは死んだ魂の持ち主なのだ。もし、きみたちがそのためにめつたやたらに人を殺すあの神が私たちをその姿に似せて作ったとしたら、妻の体に入っている銃弾は一つ一つ神の心の傷になっていくはずだ。だから、きみたちを憎むというあの贈り物はしない。彼女は毎日私たちがそばにいて、私たちがきみたちの近づけないあの自由な魂の天国でまた会えることを私は知っている」「ぼくは君たちを憎まないことにした」土居佳代子訳 ポプラ社 2016年

「赦すこと」

② (修道女連盟研修会での講話)

教区修道女連盟顧問司祭 小隈 憲 士

ことなく、向き合っています。赦すことを知っている勇氣ある人である、と私は思います。

確かに、人間は罪深い存在です。人間性の中に悪も残虐も狂気も宿っています。そのために大量破壊兵器をつくり、戦争をし、また強制収容所に罪のない人々を押し込めたり、テロを起こしたりします。しかし神の似姿に創られた人間には、また愛と勇氣も宿っています。それは逆境(不条理な出来事)の中で発揮されます。そうして、私たちが「赦すこと」のできる者となることが出来ます。

5 私たちがキリストとしっかり向き合えば、罪深い私たちを赦して下さるお方によって、私たち自身が

自分の力ではとうてい及ばないこと、「赦すこと」のできる者」へと変えられて行きます。つまり、私たちが主キリストの生き方に倣い、その主を身にまとうことによつて、私たちが自身が新しい人「赦すこと」のできる者」になるということです。聖パウロはコロサイの信徒たちに次のように語っています。

「ですから、あなた方は神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、思いやりの心、親切、へりくだり、優しき、広い心を身にまといなさい。互いに耐え忍び、誰かに不満があつたとしても、互いに心から赦し合いなさい。主があなた方を心から赦して下さつたよ

うに、あなた方もそうしなさい」(コロサイの人々への手紙3章12、13節)と。

私たちが赦された者、そして赦しを実践する者として、キリストに倣い自分自身を見つめ直すとき、不思議と、赦すことのできない相手(敵視してしまう人であつたとしても)、その人も神の似姿に創られた存在なのだと思えることも可能になります。

また聖パウロはローマの信徒たちに次のようなことを語っています。

「自分をこの代に同化させてはなりません。むしろ、心を新たに生まれ変わらせ、何が神のみ旨か、すなわち、何が善であり、神に喜ばれ、また完全なことであるかを弁えるようになりなさい」(ローマの人々への手紙2章2節)と。

い(ローマの人々への手紙12章2節)と。

なのに、私たちが他者を責め続け、赦すこともできず、裁くことを容易にしてしまっています。それほど人間は罪深く、破れた存在です。そんな私たちが悪意に満ちた行為を自分勝手に「善いことだ」と思い込み、実際にそのような行動を取る、まさにその時、十字架の上のイエスは「父よ、彼らをお許しください。彼らは自分が何をしているのか分らないのです」(ルカ福音書23章34節)と御父に私たちの赦しを願ってくださいます。

人間となられた神だからこそ、それができ、また、そうせざるをえないのです。このようにして愛そのもので

ある神は私たちに「赦しの賜物」を下さるのです。

結 び

では最後に「赦すこと」の大切さを教えるテキストをみましよう。マタイ福音書18章21、35節です。皆さんがよくご存知の箇所です。少し長いですが全文を朗読します。

ペトロはイエスに近寄つて尋ねます。「主よ、わたしの兄弟がわたしに罪を犯した場合、何度、赦さなければなりませんか。七回までですか」と。それに対してイエスは次のようにお答えになります。「あなたに言つておく。七回どころか、七十倍までである」と。つまり赦しには限度がなく、ただ、どこまでも「赦す」のだ、とい

エスは言われます。尋ねたペトロにしてみれば、律法の教えに従い、良心的にも「赦さなければならぬ」ことは十分に分かつているので、七回までその相手を赦したら十分だろうと考えています。しかし、これではまた何かのきつかけがあれば、相手の犯した罪に対して怒りがこみ上げてきます。それほど人間は弱いものです。「赦すこと」の難しさはここにあります。

しかし、イエスはその人(罪を犯したその人)が生きているために「赦すこと」を決意し実践するのだと教えます。このことを別の視点から考えますと「赦すこと」はある意味、いのちを取り去られても当然だと思えるその相手に、そのいのちを返すこと、つまり赦すことによつて、いのちを与え、その人が生きることを認め、受け入れることです。もつと言うならば人間が人間を裁くことはできないということ

それは私たちの人生は、自分だけのものではなく、罪を犯したその人も含め、すべての他者とのかわり

の中にあるからです。イエスが語られたこのたとえ話の中で、次のところはとても重要であると私は思います。31節に「この一部始終を見ていた同僚たちは、大いに心を痛め、主人の前に出て、事の次第を告げた」とあります。

非常に心を痛めた家来たちは「主人の下に一緒に生きる僕たち」なので、彼らは「共に生きる仲間」、そして彼らも負債を抱え、生きていく同じ体験(生きる上で様々な試練を受け、辛さや痛みを味わう体験)を持つている僕たちです。その体験こそは彼らの人生そのものであり、彼らは互いに連帯(かわりを持ちひとつになること)がなければ生きられないことを知っています。

私たちはこの地上を旅する仲間たちと「かわりを生きている存在であり、ひとつになること、共に生きること、連帯すること」を心に深く留めなければなりません。そしてそこには「赦し」なしには、とても生きられない私たちがいます。私たちは互いに「赦すこと」を必

要としています。だから、主イエスは「わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい」(ヨハネ福音書13章34節)と新しい掟を私たちに与えられたのです。

主イエスはどのような時にも「いのち」を尊びます。私たちの「死」ではなく「生きる」ことを願っておられます。赦さないままに生きていくことは、魂の死を招いてしまします。ですから私たちは神のいのちを生きたために、「赦すこと」を実践しなければならぬのです。

私はロシアやイスラエルの政治家や軍人たちの悪魔的所業を憎みます。が、しかし、「何を自分がしているのか分らない」その人たちが神の似姿に創られた存在であり、いつか回心の恵みが与えられることを信じ、彼らを心から赦すことができよう、祈り続けたいと思つていきます。そうすることで「赦せないところ」が悪魔の誘惑から解放され、自由なところで主イエスに倣つて「愛する」ことができる

と信じます。2024年6月2日

+KABAYAN SEKSIYON+

Ang Biblia at ang mga Sakramento

Ang liturhiya ng salita ay napakahalagang bahagi ng pagdiriwang ng mga sakramento ng Simbahan. Subalit ang mga mananampalataya ay hindi palaging nalalaman at pinahahalagahan ang ugnayan ng kilos at salita.

Dahil dito, binigyang diin ng Santo Papa ang tungkulin ng mga parii at diyakono, laluna kapag nagdiriwang sila ng mga sakramento, na ipaliwanag ang ugnayan ng salita at sakramento sa ministryo o buhay paglilingkod ng Simbahan (VD 53).

Sa pamamagitan ng wastong pag-unawa sa salita na binabasa sa pagdiriwang ng mga sakramento, ang tunay na kahulugan ng mga sakramento bilang “nakikita at mabisang signo ng mga realidad na may kaugnayan Diyos o sa pananampalataya (divine realities),” ang “pagsasangayon” o “pagsasabuhay” (making present) ng nagliligtas na salita at kilos ng Diyos sa buhay ng sambayanan, ay inaasahang mas mauunawaan, mabibigyang halaga at maisasabuhay ng mga mananampalataya na nagdiriwang nito. Ang mga sakramento ng Simbahan ay nagiging daan ng kaligtasan ng tao.

Kaya pahalagahan natin ang mga sakramento. *Katesismo Tungkol sa Liturhiya (Fr.Dino Orolfo)*

ベトナムからの3修道女が終生誓願を宣立

聖血礼拝修道会聖ヨゼフ修道院

聖職者とすべての人々のために祈りをささげる観想修道会「聖血礼拝修道会」の聖ヨゼフ修道院(霧島市溝辺町有川107)で、10月7日(月)終生誓願式があった。

同修道会はカナダ最初の観想修道会としてマザー・カタリナ・アウレリアによって、1861年に創立された。鹿兒島にやってきたのは1967年、当時の教区長里脇浅次郎司教の招きでこたえてのことだった。

以来57年もの間、ほぼ自給自足の生活を送りながらミサのためのホスチアを作り、また昼夜を問わず鹿兒島教区のために祈る生活を送っている。

この日、午前10時30分からささげられた誓願式のミサは、鹿兒島教区と教区以外から駆けつけた司祭たちの合わせて13人が主司式の中野裕明司教とともにミサ

を進めた。修道院聖堂の一般に開放された席は約40人の信徒、修道者でいっぱいになった。

貴島神父によるヨハネ福音朗読後に説教した中野司教は、「終生誓願を宣立することは、キリストの花嫁になるということ。遠いベトナムから日本に来て誓願を立て、キリストの花嫁となつて祈りの生活に専念する決心をした3人のシスターの愛はまさにアガペーと呼ばれるもの。その愛を大切に、隠れた祈りの生活で、一般社会で暮らす私たちに神の愛を思い出させてほしい」とメッセージを送った。

説教後に始められた誓願式では、誓願宣立者のシスターマリア・パウロ・フアン・テイ・クイエン、シスターマリア・ベルナルド・ダン・テイ・ゴッゴイ、シスターマリア・アビラ・ヴィー・テイ・リりの3人が呼び出しにこたえて司教の前に進み出て、「奉獻をさらに深めること」「純潔、従順、清貧」を守ることなどを約束した。その後の諸聖人の連願が歌われる間、床に伏した3人は連願終了後に自筆の誓願文を読み上げ、これを受けて院長が3人の誓願を受け入れることを宣言した。

その後、司教は祝福の祈りを唱えた後、指輪と花冠を祝



喜びの参列者たち (式後の記念撮影)

その後、司教は祝福の祈りを唱えた後、指輪と花冠を祝

別し3人に与え、「教会が与えた指名を忠実に果たすよう」訓告し、式を終え、ベトナム語の美しい調べの

イグナチオの霊操⑱

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥

第二週「謙遜の三段階」

今回は、イグナチオの霊性の中でも、そしてキリスト者としても重要な謙遜について、「霊操」の箇所を通して見ていきたいと思います。

「二つの旗」の黙想の目的が理性的な悟りであり、「三組の人」の黙想は、キリストの精神を日常生活の中で具体的な善行によって実行していくという意志の働きを目的としています。そして、この「謙遜の三段階」の黙想の目的は、キリストへの愛です。これらの黙想によって霊操者の心・魂は、理性から意志へ、意志から愛へと向かって前進していきます。アルペは、「完徳へ向かうものの愛の階段」とも表現しています。ホセ・ミゲル・バラ訳の本文をそのまま見ていきたいと思います。

第一段階(霊操165) 永遠の救いのために必要な謙遜の段階である。すなわち、すべてにおいて主なる神の掟に従えるよう、できる限り身を低くして、自分を卑しくすることである。従つて、たとえこの世の造られたすべてのものの主とされようとしても、また自分の命のためであっても、神の掟にせよ、人間の掟にせよ、背けば大罪になる掟を破るうなどとは考えもしない。

第二段階(霊操166) 第一の段階よりも一層完全な謙遜である。すなわち、もし主なる神への奉仕、および自分の霊魂の助かりのため、にどちらと同じく役立つなら、貧しさよりも富を、不名誉よりも名誉を、短命よりも長寿を望むことなく、いづれにも傾かない態度をもつということである。その上、たと

え全世界を手に入れるためでも、あるいは、命を失うことになろうとも、小罪を犯そうなどは考えもしない。

第三段階(霊操167) もっとも完全な謙遜である。すなわち、第一と第二の段階を含め、もし主なる神の賛美と栄光が同じであるならば、わが主キリストに一層誠実に倣い、似た者になるため、貧しいキリストと共に富よりも貧しさを、侮辱に飽かされたキリストと共に名誉よりも侮辱を望み、この世の学者、賢者と見なされたい望みよりも、かつて愚者、狂人と見なされたキリストのため、愚者、狂人と見なされることを望み、選ぶのである。次回、もう少し見ていきたいと思ひます。

参考文献 ペドロ・アルペ、キリストの道 第四巻 第一週 生活の改善

9月のコンベンツス

9月3日(火)10時から15時まで教区本部で、コンベンツスが開催された。中野司教はじめ教区・修道会司祭、助祭、神学生など合計24人の出席だった。

午前中は10月13日(日)、14日(月)に開催

聖歌も歌われるミサが続けられた。聖ヨゼフ修道院の修道女たちが祈りをささげるメイソンの聖堂には、ベトナムからこの日のために駆けつけた誓願宣立者たちの親、兄弟姉妹の姿も見られた。ミサ後は駆けつけた喜びの信者たちとの和やかな食事のひと時がもたれた。

「シノドスハンドブック」も紹介された。午後には来年2025年の通常聖年について、教皇フランシスコ大勅書『希望は欺かない』や内教院発行の免償に関する教令の紹介および中野司教による講話があった。その後は参加者同士の積極的な質疑応答・意見交換が行われた。



会と催し 11月

- 1日(金) 諸聖人
- 2日(土) 死者の日
- 3日(日) ▼平秀応修道士命日(1994年)
- 3日(日) 死者のためのミサ・名瀬納骨堂前広場ミサ・11時
- 4日(月) ▼死者のためのミサ・カトリック唐湊墓地・14時
- 4日(月) 大野和夫神父命日(2016年)
- 5日(火) 教区司祭会・教区本部・10時
- 5日(火) ▼みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 8日(金) 鹿兒島カリタス・教区本部・14時
- 9日(土) ラテラン教会の献堂
- 9日(土) ▼聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 10日(日) ▼メニヒ神父霊名(テヨドル)
- 10日(日) ▼年間第32主日
- 10日(日) ▼ガブリエル神父命日(1978年)
- 11日(月) 石神秀人助祭霊名(マルティン)
- 17日(日) ▼年間第33主日
- 17日(日) ▼貧しい人のための世界祈願日
- 17日(日) ▼レジオナリエ鹿兒島・谷山教会・14時
- 17日(日) ▼聖書週間・24日
- 17日(日) ▼福者レオ七右衛門殉教祭・川内教会・13時30分
- 20日(水) ▼神修神父命日(2014年)
- 20日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 20日(水) ▼三木巖神父命日(2000年)
- 23日(土) シンドテイ祭ミサ・屋久島教会・15時
- 24日(日) ▼王であるキリスト
- 24日(日) ▼世界青年の日
- 27日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 30日(土) 聖アンドレ使徒
- 【司教日程】1日大口明光学園、5日教区司祭会、6日7日新任司教委員会(東京)、8日鹿兒島カリタス、10日志布志教会、11日14日韓司教交流、17日福者レオ七右衛門殉教祭、20日中野アカデミー、21日理事長・校長会、22日24日屋久島教会、27日中野アカデミー、28日社会福祉法人理事会

訃報

▼小隈ミエさん 小隈憲士神父(ザビエル教会主任司祭)のご母堂・小隈ミエさんが10月7日(月)午後、入院先の大隅鹿屋病院で心不全のため亡くなった。95歳だった。通夜は10月8日(火)、葬儀は9日(水)、いづれも「ルミエール吾平」で親族のみで執り行われた。

【祈りの意向】 祈りの意向 教 皇 子を失った親 日本教会 日韓司教交流会

カトリックの施設で働きませんか?

阿久根市の聖園老人ホーム

特定施設入居者生活介護「聖園老人ホーム」(社会福祉法人善き牧者会・所在地・阿久根市西目5820)では、ケアマネジャーを急募しています。働く意欲のある方、電話にてご連絡ください。

☎ 0996(79) 3133

聖霊の導きを感じ取る

教区評議会締めくくりのミサでの小西神父の説教（要旨）



小西広志神父

私は2021年から「東京シノドスチーム」で仕事をしています。この役目を受けてから「私たちはどこから来て、今どこにいて、聖霊はそんな私たちをどこに向かわせようとしているのか」ということを意識し



教区評議会を締めくくるミサ

てきました。これに関連して、鹿兒島を訪れて「いいなあ」と思ったことをお話しします。昨夜、ホテルへ戻る際に「薩摩義士の墓」を見つきました。ご存知のように薩摩義士は、徳川幕府の命令を受け木曾川、揖斐川、長良川の治水工事に挑みまし

ました。ご存知のように薩摩義士は、徳川幕府の命令を受け木曾川、揖斐川、長良川の治水工事に挑みまし。多くの犠牲者を出し、莫大な費用がかかったのです。その責任をとって50人を超える薩摩藩士は自害したとい

います。命令だったとはいえ、彼らは今の岐阜県や名古屋の人々のために、無償の愛、生命をささげたのです。そんな立派な人たちの心意気が今の鹿兒島の人々の中にも息づいているのではと思

きました。私たちのフランシスコ会の修練院の祭壇とほぼ同じものなのですね。なぜこのような祭壇がここにあるのかは分かりませんが、鹿兒島で宣教したフ

ラシスコ会カナダ管区の先輩たちの歩みを感じる事ができました。またザビエル教会の小聖堂も好きです。とくに壁にかかったイエスの像（十字架のない）が、あけわたす

短歌

吉野教会 中江 均

聖母の被昇天祝う司教ミサ
聖歌寿ぐベトナムの衆
8月15日

ミサの後老い慈しむ揺らう
会卓上賑わすベトナム料理
9月15日

ちが同じカズラを着ていること、典礼がしつかりしているのも羨ましいと思

と同じように死と復活を体験し、生まれ変わったので

皆が宣教師となります。聖霊（神）は、私を、私



親子のミサ

今回は信仰生活の中心であるミサについて考えてみましょう。

ミサとは目に見えないイエス様が司祭の手を通して、パンとぶどう酒のかたちで御自分の体と血を生贄として父なる神様に捧げる祭りのこと

ミサについて

です。ミサでは信徒は神の司祭的民として、司祭の手を通して聖なるいけにえをささげ、それに合わせて自分をささげなければなりません。ここで「神の司祭的民」とはイエス様が民を贖う祭司として自らを犠牲にしたように、信徒もミサで自らを捧げ神の国の完成に奉仕する役

目を担っているということを意味します。また「聖なるいけにえをささげ、それ

ではなぜミサを大切にしなければなら

ないのでしょうか。ミサとはイエス様を直接に知らない人にイエス様のことを伝えるための術であり、イエス様のご身を正しく記憶に留め、それを個人としてではなく共同体として正しく共有化し、後代に伝えることを目的としたものでもあります。

それによりキリスト者として自分に委ねられた使命を再確認し、イエス様の教えに従って生きようとするために御聖体を頂くのです。イエス様が教えてくださった神の国のことをイエス様に代わって告げ知らせるためにミサは信仰生活の中心となるのです。

お詫びと訂正

①本紙9月号4面「幼保連盟教職員夏季研修大会を終えて」の記事で執筆された濱田美和さんの勤める幼稚園名を「名瀬信愛幼稚園」とするべきところを「名瀬親愛幼稚園」と誤ってしまいました。お詫びし訂正いたします。

②教区報10月号で9月3日に帰天されたペトロ瀧憲志神父様の年齢を98歳としておりましたが、正しくは93歳でした。お詫びし訂正いたします。

鹿兒島教区 広報部